

コース16 樽前山とアポイ岳

リーダー CL K/T SL M/T

実施日 平成19年 5月 31日(木) ~ 6月 3日(日)

天候 6/1 快晴 6/2 晴れ、ガスで遠望なし

参加者 24 (男性 6 女性18)

グレード B上C

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
5/31(木) 新潟西港		10:30	小樽港着 6/1(金) 4:30
6/1(金) 樽前山 7合目ヒュッテ	6:40	7:10	ヒュッテへの車道、この日から開通
外輪山・東山	8:15	8:35	地味だが、コメツガザクラの一面の大群生
外輪山・西山	9:30	9:50	外輪山と岩ドームの眺望を堪能。
932m峰	10:50	11:55	反対側に、支笏湖から遠く羊蹄山まで展望
7合目ヒュッテ	13:05	13:25	様似町・アポイ山荘着 17:00(泊)
6/2(土) アポイ山荘	7:10	7:15	アポイ山麓ファミリーパークが登山口
5合目・休憩小屋	8:55	9:05	5合目までの、湿気の多い岩間にヒダカイワザクラ多し
アポイ山頂	10:55	11:30	登り、下り共、多くのパーティに会う
幌満お花畑	12:00	12:10	お花のない「お花畑」。ここから合流までの林床多し
登山口	14:40	15:00	苫小牧東港着 17:50 出港 19:50
6/3(日) 新潟西港	15:30		

山行等概要(幹事のコメント)

- ・ 1日は展望の樽前山で快晴、2日は花のアポイ岳で終始ガス(遠望がきかないだけで周囲は良く見える)一で良かった。これが逆だったら、大変残念なことになったが・・・

- ・ 樽前山では、外輪山を自分たちの足で一周し、その仕上げに932m峰から、怪異な岩ドームをかかえる全容を大展望できた上、支笏湖越しに羊蹄山まで遠望できて良かった。又、砂礫のコメツガザクラや932m峰の樹間のサンカヨウ、白花エンレイソウ、ツバメオモトなど自分(担当幹事)にとっても新しい発見で良かった。
- ・ 「花の百名山」アポイ岳は、北海道が初めての人には感激だったろうが、花の大雪ほか経験している人には物足りなかったのではなからうか。地元の人(専門家)に花のことを尋ねたところ、普通この時期が最適なのだが、暖冬とその後の寒気で盛りが15日位前になり、その他の花は逆に遅れているとのこと。
- ・ ちょうど端境期に当たってしまったようで、花の時期は本当に難しい、それでもヒダカイワザクラをはじめ、アポイアズマギク、チングルマ、アポイタチツボスミシ、サマニイワザクラ、ヒメイチゲ、キタヨツバシオガマ、エソカワラナデヒコ
- ・ 船では、ゆったりとした食事や談笑、男鹿半島から秋田の山並み、鳥海山と飛島、粟島など次々と飽きさせなかった。



アポイ岳山頂にて

「樽前山とアポイ岳登山に参加して」

(648) C/O

私にとって憧れていた北海道への山行きでした。

新潟西港より新日本海フェリーにて、ドラの音に送られ出港、参加者一同24名船中の人となった。その日の昼食時を利用して自己紹介を行い、和やかな雰囲気の中終了しました。百名山を目指している人、観光旅行などで訪れた事のある人達に混じり、高齢者の私が始めて北海道の樽前山とアポイ岳に挑戦出来ることの喜びに浸りながら、船中眠りにつきました。

さて翌朝時刻通り小樽港へ到着、出迎えのコダマ交通のバスに乗車、支笏湖経由登山口の樽前山七合目フツッテ到着(標高660m)、即身支度を整え登山開始。

ミヤマハンノキの生い茂る登山道を暫く登ると、林が終り見晴らしが良くなったので、振り向くと支笏湖と周りの山々が眼前に広がっていた。砂礫の道を登って行くと低木や草も少なくなりひたすら登りつめると、広い火口原の縁にでた。展望も一転し、黒くて荒々しい巨大ドームが現れ、一部の所から白い噴気が吹き上がっている異様な風景と対面することになった。

外輪山の最高峰である東山（1024m）の山頂に到着、休憩後時計廻りで西山へ。途中樽前山神社奥宮の祠を過ぎ、右手にドームを見ながら西山へと進む。黄色くただれた様に見えた硫黄の固まりドームから、転げ落ちて来たと思われる黒い溶岩のかけらが、色々な形で転がっており、直径5～6m位のものや、高さ10m位もあるような大きなピラミット形のものなど様々である。

自然のつくり出す不思議な世界にすっかり魅了された私でした。

西山（995m）へ到着休憩を挟み、932m峰まで登り返して、遙か彼方に大雪山系を見ながら昼食をとりました。

下山途中風不死岳への道と別れて又、あの独得な山高帽の様なドームともお別れして登山口に戻り、アポイ山荘に向かった。

翌朝、霧雨の中スパッツを履いていざ出発。

アポイ岳は標高811mですが色々な高山植物に恵まれ、国の特別天然記念物に指定されており、「オーバーユース」特に花の踏みつけやトイレの問題が懸案になっているそうです。

歩き始めて間もなく新道と分かれ旧道のトドマツ林に入りました。この辺りの樹林帯には5月中旬頃よりエゾオオサクラソウ、ヒメイチゲ、ツマトリソウ、エゾムラサキツツジなどが咲き競う所です。

途中湿原や樹林帯を抜けて行くと新道と合流、まもなく避難小屋に到着、新潟から持参した香り豊かな笹だんごやおせんべいでお茶を飲み喉をうるおす。休憩後馬の背より山頂に至るまでの間、足元には上にアポイと名のつく花が多く咲くところであり、タチツボネスミレ、アズマギク、キンバイ、クワガタ、セキショウ、マンテマ、ヒダカイワザクラ、エゾキスミレ、面白い名前のヒロハヘビノボラスなどの内、運良く咲いていたお花には出会えました。山頂付近にはダケカンバの林があり眺望は良くなかった。



932m 峰より樽前山 東山と岩ドーム

昼食後山頂にて集合写真を撮り下山の途に着

く。全員無事ファミリーパーク登山口に到着。その後、苫小牧東港よりフェリーに乗船新潟へ帰る。楽しみにしていたヒダカソウは、もう咲き終わっていたのかも知れず、ついにお目にかかることが出来ませんでした。

今回参加された人の中に足の怪我をされ、治癒後久し振りの山に挑戦され無事登頂でき感激の余り涙ぐんで居られましたが、チャンスを与えて下さった方と、それを生かした本人の頑張りが一番だったと思います。私もその光景をみて嬉しくなり、ここにご紹介させて頂きました。

今回山行きのリーダー、サブリーダーを努められました T 会長ご夫妻には感謝申し上げます。

私事ですが、来年も元気で皆様のお力を借りながら山へ行けたら幸いと思っております。